



增入 新板

五先其藝出忠信

一七六一

冬格戴番
五冊物





序



取^とり梅^{うめ}の白^{しろ}いと如^{ごと}くお^おか^か入^いり寫^{しやう}を
 け^けこ^この^の波^{なみ}乃^{のみ}よりあ^あか^かい^いと^とん^んん^んを
 う^うりて^て種^{くさね}古^こと^と節^{ふし}の直^{ただ}き竹^{たけ}幸^{さい}れ
 一^{ひと}流^{りゅう}世^よに^に弘^{ひろ}まり貴^き賤^{せん}の身^みと^と悦^{よろこ}べし
 義^ぎちまが^があ^あは^はり^り人^{ひと}形^{かたち}乃^{のみ}働^{とら}と^とん^んぬ^ぬ性^{せい}古^この
 頼^{より}朝^{あさ}義^ぎ経^{けい}も^もか^かの^の名^なも^もた^たり^り勇^{ゆう}士^し紙^し今^{いま}目^めれ

頼朝義経

終

前より録多し一録舎實記のわたり
き趣向を五冊一綴りて童男のわら
いさほしひりよのわら

作者其碩



作者自笑



千時りてこい

辰の初ま

互先碁盤忠信

一之巻

目録

第一 大將のこい語がぬ静が母れ穿髪

叔父が甥の威と借行家の大長歌

百玉棋盤に酔も醒果る公家の預子

連理の中い連枝とから足才の名系

才二

酒一いげらな武藏坊が強さを見

三味線喜い啼きあ破の祿呼へ方便の基

平家の子又焼て推し明智乃を急

仕者侍りるはくさいしもの坊主あ

才三

戰場功ねる飛升河世徳代の家は

強きて攻をうつて籠橋乃一れ

大さふ偽証敷く五百名の知り

親父の礼よちがうる花乃都あ

①大将の心騒ぐ静が母の穿鑿

高鳥盡て良弓藏ふ。枝兎死く走物烹。是韓信

が宿願の一句。じかたうれ。鎌倉の右大将頼朝。東家の

恭兵衛と結ぶ。君の宸襟と安んずる。且はとまの難言

を報じ。四海に武威とくやじ多い。六十余列の熱返捕

使し補せられたる。是皆侍令身。九郎判友義経の

武功より。きくふ梶魚又子。後只孤信ト。所が罪か

き判友友と。とさんものさも立。お説長の西あといひ

ちがう。頼朝の右今に稀なる名將。何ぞ後者の実吾

をも紀されど。程くまう骨肉を分り侍令身を。殊罰

だんとや言をさへさへさや。侍才をさう。義経の武畧智謀

元人の及びまひあざればはのよいせぬ棄つべきもの也。今こそ
威勢激たる中に、徒をくらべては孫の然と終さんと。幸死を
もて。東とたたよよせて。腰裁より退治し。人保略の程こそ
柳にけき。是を書ふ。敵國滅して。保長とぬといふ。倍をひく。
心無きとぬい。むろふ。去作務。昌俊と付。このがさうして。中
一戦。折負。昌俊。終。は。は。志。う。う。上。河。白。と。極。さ。に。信。を。指
の。や。し。と。お。條。河。内。政。権。系。平。と。ま。河。上。教。方。の。軍。兵。と。こ
し。く。く。ま。お。わ。て。付。の。の。お。さ。う。く。ひ。の。お。よ。く。わ。わ。と。れ。も。九
郎。判。表。著。信。の。少。も。せ。ら。る。を。信。り。と。う。の。は。高。都。よ。く。わ。れ。た。
孫。の。孫。師。が。始。靜。と。い。つ。る。白。拍。子。に。は。ま。づ。と。ぬ。く。孫。師。よ。る。と。ら。乃
今。紹。と。は。く。い。し。靜。と。事。か。あ。八。条。の。江。初。鼓。よ。入。と。う。進。は
冠。を。は。く。は。終。白。拍。子。と。あ。ま。は。室。の。志。の。備。あ。る。孫。の。終。鼓。と

トセ。い。六。条。判。表。の。義。の。十。四。引。て。た。る。以。義。初。初。た。の。末。平。に。と。九。郎
判。表。の。の。い。れ。初。は。は。り。じ。が。林。義。表。著。信。の。と。ら。在。京。で。お。い。と。あ。り
義。經。の。由。方。へ。も。考。入。來。の。そ。靜。由。の。判。表。も。判。表。の。と。ら。入。河。内
と。の。判。表。も。あ。り。と。初。表。と。か。い。け。奥。下。り。今。う。も。義。經。と。も。わ。た。ふ
初。又。物。の。初。表。の。う。び。を。ま。の。孫。孫。の。樂。い。も。初。表。ひ。と。金。念
か。た。と。女。也。以。の。梅。の。并。ゆ。り。も。靜。由。の。母。也。破。の。孫。師。の。由。方。より
由。方。の。た。あ。平。と。別。れ。お。付。を。回。々。と。靜。由。に。は。進。む。と。さ。り
本。は。て。ま。う。ら。は。お。初。表。へ。通。一。由。せん。や。お。初。表。の。由。方。も。ま。う。ら。は
と。て。せん。が。あ。を。初。表。へ。何。の。あ。ぞ。ま。う。ら。う。と。靜。由。と。ひ。き。き
見。て。母。の。方。か。う。か。ね。す。ま。じ。ぐ。う。い。じ。ア。さん。と。母。の。あ。を。判。表。へ
み。せ。う。ら。は。お。初。表。の。あ。い。何。く。は。孫。師。の。由。方。と。い。わ。れ。ど。う。の。あ。ま
乃。初。表。の。由。方。も。初。表。の。あ。い。何。く。は。孫。師。の。由。方。と。い。わ。れ。ど。う。の。あ。ま



ちかまど付つらゆはをきてしやまきさるるべしよのたまおほしきら
 祿師がまの路とていわけさるるはあはれおほしきとぞんほしきとて
 ちかまどをみ河を告られさるるは。毎て母のおとさるるが。あが
 ちの親の許りこそ。そこのあふきもあはれおほしき。今うたまはちと
 けこそれおほしき。よぶたまありとんあはれおほしき。おほしきとぞ
 のこまに。あはれ之を粹如たね。はらふらんあはれおほしき。世乃るあは
 我子とあらひひて。このあはれおほしき。あはれおほしき。あはれ
 成入て。あはれおほしき。あはれおほしき。あはれおほしき。あはれ
 ちかまどをみ河を告られさるるは。毎て母のおとさるるが。あが
 ちの親の許りこそ。そこのあふきもあはれおほしき。今うたまはちと
 けこそれおほしき。よぶたまありとんあはれおほしき。おほしきとぞ
 のこまに。あはれ之を粹如たね。はらふらんあはれおほしき。世乃るあは
 我子とあらひひて。このあはれおほしき。あはれおほしき。あはれ
 成入て。あはれおほしき。あはれおほしき。あはれおほしき。あはれ
 ちかまどをみ河を告られさるるは。毎て母のおとさるるが。あが
 ちの親の許りこそ。そこのあふきもあはれおほしき。今うたまはちと
 けこそれおほしき。よぶたまありとんあはれおほしき。おほしきとぞ
 のこまに。あはれ之を粹如たね。はらふらんあはれおほしき。世乃るあは
 我子とあらひひて。このあはれおほしき。あはれおほしき。あはれ
 成入て。あはれおほしき。あはれおほしき。あはれおほしき。あはれ

ちかまど付つらゆはをきてしやまきさるるべしよのたまおほしきら
 祿師がまの路とていわけさるるはあはれおほしきとぞんほしきとて
 ちかまどをみ河を告られさるるは。毎て母のおとさるるが。あが
 ちの親の許りこそ。そこのあふきもあはれおほしき。今うたまはちと
 けこそれおほしき。よぶたまありとんあはれおほしき。おほしきとぞ
 のこまに。あはれ之を粹如たね。はらふらんあはれおほしき。世乃るあは
 我子とあらひひて。このあはれおほしき。あはれおほしき。あはれ
 成入て。あはれおほしき。あはれおほしき。あはれおほしき。あはれ
 ちかまどをみ河を告られさるるは。毎て母のおとさるるが。あが
 ちの親の許りこそ。そこのあふきもあはれおほしき。今うたまはちと
 けこそれおほしき。よぶたまありとんあはれおほしき。おほしきとぞ
 のこまに。あはれ之を粹如たね。はらふらんあはれおほしき。世乃るあは
 我子とあらひひて。このあはれおほしき。あはれおほしき。あはれ
 成入て。あはれおほしき。あはれおほしき。あはれおほしき。あはれ
 ちかまどをみ河を告られさるるは。毎て母のおとさるるが。あが
 ちの親の許りこそ。そこのあふきもあはれおほしき。今うたまはちと
 けこそれおほしき。よぶたまありとんあはれおほしき。おほしきとぞ
 のこまに。あはれ之を粹如たね。はらふらんあはれおほしき。世乃るあは
 我子とあらひひて。このあはれおほしき。あはれおほしき。あはれ
 成入て。あはれおほしき。あはれおほしき。あはれおほしき。あはれ

如幻者女(かまご)戒名(かいな)と付れ(つ)けられたは(は)由(ゆ)常(じょう)所(じょ)の件(けん)の(ま)由(ゆ)え
本(ほん)邪(じや)の(ま)由(ゆ)え(ま)由(ゆ)えが(ま)由(ゆ)え本(ほん)邪(じや)の(ま)由(ゆ)え(ま)由(ゆ)え
恨(うら)みの(ま)由(ゆ)え(ま)由(ゆ)えが(ま)由(ゆ)え(ま)由(ゆ)え恨(うら)みの(ま)由(ゆ)え
あ(ま)由(ゆ)え(ま)由(ゆ)え(ま)由(ゆ)え(ま)由(ゆ)え(ま)由(ゆ)え(ま)由(ゆ)え(ま)由(ゆ)え
つ(ま)由(ゆ)え(ま)由(ゆ)え(ま)由(ゆ)え(ま)由(ゆ)え(ま)由(ゆ)え(ま)由(ゆ)え(ま)由(ゆ)え
由(ゆ)え(ま)由(ゆ)え(ま)由(ゆ)え(ま)由(ゆ)え(ま)由(ゆ)え(ま)由(ゆ)え(ま)由(ゆ)え
て(ま)由(ゆ)え(ま)由(ゆ)え(ま)由(ゆ)え(ま)由(ゆ)え(ま)由(ゆ)え(ま)由(ゆ)え(ま)由(ゆ)え
う(ま)由(ゆ)え(ま)由(ゆ)え(ま)由(ゆ)え(ま)由(ゆ)え(ま)由(ゆ)え(ま)由(ゆ)え(ま)由(ゆ)え
う(ま)由(ゆ)え(ま)由(ゆ)え(ま)由(ゆ)え(ま)由(ゆ)え(ま)由(ゆ)え(ま)由(ゆ)え(ま)由(ゆ)え
を(ま)由(ゆ)え(ま)由(ゆ)え(ま)由(ゆ)え(ま)由(ゆ)え(ま)由(ゆ)え(ま)由(ゆ)え(ま)由(ゆ)え
う(ま)由(ゆ)え(ま)由(ゆ)え(ま)由(ゆ)え(ま)由(ゆ)え(ま)由(ゆ)え(ま)由(ゆ)え(ま)由(ゆ)え
は(ま)由(ゆ)え(ま)由(ゆ)え(ま)由(ゆ)え(ま)由(ゆ)え(ま)由(ゆ)え(ま)由(ゆ)え(ま)由(ゆ)え
て(ま)由(ゆ)え(ま)由(ゆ)え(ま)由(ゆ)え(ま)由(ゆ)え(ま)由(ゆ)え(ま)由(ゆ)え(ま)由(ゆ)え
も(ま)由(ゆ)え(ま)由(ゆ)え(ま)由(ゆ)え(ま)由(ゆ)え(ま)由(ゆ)え(ま)由(ゆ)え(ま)由(ゆ)え
り(ま)由(ゆ)え(ま)由(ゆ)え(ま)由(ゆ)え(ま)由(ゆ)え(ま)由(ゆ)え(ま)由(ゆ)え(ま)由(ゆ)え
う(ま)由(ゆ)え(ま)由(ゆ)え(ま)由(ゆ)え(ま)由(ゆ)え(ま)由(ゆ)え(ま)由(ゆ)え(ま)由(ゆ)え
り(ま)由(ゆ)え(ま)由(ゆ)え(ま)由(ゆ)え(ま)由(ゆ)え(ま)由(ゆ)え(ま)由(ゆ)え(ま)由(ゆ)え

たふさとしてばやの汗晴そは足程のさあすや又群とは
後の足身は今の思致ははるをさうまてさせぬよこにけりて
びてせらるゝぬまのゆりてせらるゝぬまのゆりてせらるゝぬまの
しきまゝくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
て。まはるゝくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
かゝれどもねえくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
けるに尾ひしとてつて極あきく内通のれも。あぐくくくくくく
年暮やめて何群はあいらりるの始れもや。てそれくくくくくく
子細くゆゆまの群が母にたははるてさうまてさうまてさうまて
くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
たが群とてゆゆのゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
あり時あむゆゆのゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ

今人のけさ。白く群。赤く群。のゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
てねえくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
ら切がとぶづつとてはくくくくくくくくくくくくくくくくくく
は身とまゝくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
神く巧めくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
三 戦場一功のくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
るる子細くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
人二度のゆゆくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく



埒不明の故に流るるに厄病の神を勤むべく。種々の
 より神とのむさ。判るに後切を。それらにせらるる押出。神と
 引のて。毎旦社具。まゝのたを。唐紙の目。桂の船。名。海。家の
 わづけ。船。名。まゝの。海。の。神。が。お。て。お。て。後。は。し。た。て。石。
 と。は。実。物。の。お。ま。り。の。て。は。ま。り。た。ま。は。た。ま。の。ま。り。の。ま。り。
 ま。り。の。ま。り。の。ま。り。の。ま。り。の。ま。り。の。ま。り。の。ま。り。の。ま。り。
 清。く。ま。り。の。ま。り。の。ま。り。の。ま。り。の。ま。り。の。ま。り。の。ま。り。
 の。は。自。身。の。判。と。す。ま。り。の。ま。り。の。ま。り。の。ま。り。の。ま。り。
 至。巧。の。お。ま。り。の。ま。り。の。ま。り。の。ま。り。の。ま。り。の。ま。り。
 ぐ。コレ。は。神。の。お。ま。り。の。ま。り。の。ま。り。の。ま。り。の。ま。り。の。ま。り。
 た。ま。り。の。ま。り。の。ま。り。の。ま。り。の。ま。り。の。ま。り。の。ま。り。
 の。お。ま。り。の。ま。り。の。ま。り。の。ま。り。の。ま。り。の。ま。り。の。ま。り。

けらうい。神。の。お。ま。り。の。ま。り。の。ま。り。の。ま。り。の。ま。り。の。ま。り。
 の。お。ま。り。の。ま。り。の。ま。り。の。ま。り。の。ま。り。の。ま。り。の。ま。り。
 せん。と。神。の。お。ま。り。の。ま。り。の。ま。り。の。ま。り。の。ま。り。の。ま。り。
 神。の。お。ま。り。の。ま。り。の。ま。り。の。ま。り。の。ま。り。の。ま。り。の。ま。り。
 神。の。お。ま。り。の。ま。り。の。ま。り。の。ま。り。の。ま。り。の。ま。り。の。ま。り。
 神。の。お。ま。り。の。ま。り。の。ま。り。の。ま。り。の。ま。り。の。ま。り。の。ま。り。
 神。の。お。ま。り。の。ま。り。の。ま。り。の。ま。り。の。ま。り。の。ま。り。の。ま。り。
 神。の。お。ま。り。の。ま。り。の。ま。り。の。ま。り。の。ま。り。の。ま。り。の。ま。り。
 神。の。お。ま。り。の。ま。り。の。ま。り。の。ま。り。の。ま。り。の。ま。り。の。ま。り。
 神。の。お。ま。り。の。ま。り。の。ま。り。の。ま。り。の。ま。り。の。ま。り。の。ま。り。

出づれば我々もつゝて追ひつゝをききたり。判友もつゝし止む人あるあり
ぬき高座刀にじふ切て捨はす。まづは海をわたるにまよひまよひとあり
多しは海をわたるに海をわたるまよひまよひとあり。海をわたるにまよひまよひとあり
ゆゑのまよひまよひの行りゆゑのまよひまよひとあり。海をわたるにまよひまよひとあり
獄へ入てまよひまよひ。海をわたるにまよひまよひとあり。海をわたるにまよひまよひとあり
て海をわたるにまよひまよひとあり。海をわたるにまよひまよひとあり。海をわたるにまよひまよひとあり
もれ後切果つた。まよひまよひとあり。海をわたるにまよひまよひとあり。海をわたるにまよひまよひとあり
海をわたるにまよひまよひとあり。海をわたるにまよひまよひとあり。海をわたるにまよひまよひとあり
まよひまよひとあり。海をわたるにまよひまよひとあり。海をわたるにまよひまよひとあり。海をわたるにまよひまよひとあり
海をわたるにまよひまよひとあり。海をわたるにまよひまよひとあり。海をわたるにまよひまよひとあり。海をわたるにまよひまよひとあり
海をわたるにまよひまよひとあり。海をわたるにまよひまよひとあり。海をわたるにまよひまよひとあり。海をわたるにまよひまよひとあり

正イ。
七十一の

の押のつゝをききたり。判友もつゝし止む人あるあり
ぬき高座刀にじふ切て捨はす。まづは海をわたるにまよひまよひとあり
多しは海をわたるに海をわたるまよひまよひとあり。海をわたるにまよひまよひとあり
ゆゑのまよひまよひの行りゆゑのまよひまよひとあり。海をわたるにまよひまよひとあり
獄へ入てまよひまよひ。海をわたるにまよひまよひとあり。海をわたるにまよひまよひとあり
て海をわたるにまよひまよひとあり。海をわたるにまよひまよひとあり。海をわたるにまよひまよひとあり
もれ後切果つた。まよひまよひとあり。海をわたるにまよひまよひとあり。海をわたるにまよひまよひとあり
海をわたるにまよひまよひとあり。海をわたるにまよひまよひとあり。海をわたるにまよひまよひとあり
まよひまよひとあり。海をわたるにまよひまよひとあり。海をわたるにまよひまよひとあり。海をわたるにまよひまよひとあり
海をわたるにまよひまよひとあり。海をわたるにまよひまよひとあり。海をわたるにまよひまよひとあり。海をわたるにまよひまよひとあり

一五巻終

